

人話す言葉には メロディー・リズム・テンポある それつまり歌ってるといふことである

純歌とは 「純粹に楽器を必要としない\*1歌」である 楽器を付けてもよいけれど

声に出し歌ふのならば \*2歌を演じて 思ひ歌はな

純歌とは 文字の十二行以内を「短源」と 十二行超えると「長源」といひ 純歌の基本は短源である

一行を 幅が足りずに書けぬなら \*3列付けて 次の列に一間を下げて書けばよい

一つの純歌を「一歌」と そして「二歌」や「三歌」といふ

その純歌に 題を付けると「一曲」と そして「二曲」や「三曲」といふ 一歌と二歌や二歌と三歌の間を「源間」といひ 源間には「:」真ん中に打てばよい

純歌を歌ひ作る人を「歌家」や「歌手」といふ

\*4純歌は歌を歌ふとも作るともいひ \*2歌を歌ふとも読むともいふ

純歌を集めた本を「純歌集」といふ

純歌を歌ふ さう 歌を

---

\*1 純歌は文学であり、音楽であり、芸術である。

\*2 純歌は純歌を声に出して言う場合、歌う場合と読む場合の2種類ある。つまり純歌を声に出して歌う場合、単に読む場合とは異なる。分かりやすくいうと純歌を歌う場合、歌を演じる、つまり思い歌うのである。

\*3 純歌は行の中に列を設けて、一行目一列目や一行目二列目という様になる。

\*4 純歌は純歌を作る場合、純歌を歌うともいう。